



伊藤 春美 議員

※ SAF 推進で脱炭素社会へ

問 ゼロカーボンシティあさひを宣言した本市として、家庭の廃食用油を原料とするSAF（持続可能な航空燃料）を脱炭素施策に位置づける考えはあるか。

※SAF……解説は16ページ。

答 廃食用油の回収は、昨年に宣言したゼロカーボンシティあさひの脱炭素社会の実現に寄与するものであり、調査研究していきたい。

低出生体重児への母乳育児支援

問 低出生体重児にとって、母乳は優れた栄養と免疫を得る大切なものである一方、母親にとって搾乳は心身の負担が大きい搾乳器等購入費助成や無料レンタル制度を創設する考えは。

答 医療費助成等により支援しており、費用助成は難しい。無料レンタルも実施の考えはない。

赤ちゃん全戸訪問や産後ケア事業、伴走型相談支援など包括的な支援体制の充実を図ることで、家族に寄り添ったサポートに努めていく。

問 市内に授乳・搾乳のできる施設はどのくらいあるのか。

答 公共施設では、本庁舎1・2階、ハニカム、おひさまテラス、道の駅季楽里あさひ、県立東部図書館の計6か所。入口には分かりやすい表示がある。



本庁舎1階にある授乳室

路肩の雑草対策を

問 路肩の雑草繁茂により道路や歩道の幅員が確保できず、事故の危険性が高まっている現状をどう認識し対策していくのか。

答 交通安全上の課題と認識している。週2回の道路パトリールを実施し、繁茂箇所は除草作業を行い、国県道は道路管理者である県へ対応を依頼している。



松木 源太郎 議員

千葉におけるCCS事業計画について

問 日本製鉄が発生させた二酸化炭素を九十九里町沖合に埋め込む事業を首都圏CCSが進めることになり、九十九里町や匝瑳市で説明会が実施された。旭市ではどのように対応するのか。

答 本市は事業計画区域が近接しているため、市民に不安が生じないよう、国・県や事業者の動向を注視し適切に対応する。

市職員のハラスメント調査結果について

問 今回、正規職員のみアンケート調査で、会計年度職員などが対象になっていない。これらの方々が対象になっていなければ十分な調査とは言えないと思うが、見解を伺う。

答 今回、初めてアンケートを行った。まずは正職員についてアンケートを取り、次回以降は、会計年度任用職員についても

取るかどうかを検討したい。

問 議員からハラスメントを受けた職員が32人もいる。これは大きな問題である。市として議会にどのような形での要請をしたのか。

答 1月に議長宛てに市から申入れを行っている。内容としては、市議会議員と面談を行う場合は2名以上で対応することや、必要に応じて録音を行うこと、また、副課長以下で対応した場合は内容を課長へ報告するほか、その面談の内容は記録をつけることなど、面談時の対応について職員にも周知をしている。

学校再編基本方針について

問 第二中学校区の共和・琴田小の生徒を（仮称）北中学校へ行くように結論づけるのは、なかなか難しいと思っていた。事実、合意ができなかった。中学校をどうするかは、中学校全体の状況の中で議論すべきと考える。

答 統合中学校を3校とする案、または2校とする案ということで、四つのパターンの資料を出したが、これは代表者会議で委員から出た意見を一旦整理するために作成したもので、市の方向性等を示したものではない。